

3. 志太医師会の役割と取り組み

志太医師会

I. 志太医師会の役割

これからの医療は病院完結型から地域完結型への転換が求められています。その際に、地域住民の健康と生活を、多職種が連携して支える仕組みが地域包括ケアシステムであり、志太医師会はその中で積極的にリーダーシップをとることが期待されています。

ですから、ふじえだCKDネットにおいても、“かかりつけ医”としてCKD(慢性腎臓病)患者さんを実際に診療している医師会員が、その活動を牽引してゆかねばなりません。

CKDネット開始以来、透析導入の件数も減少傾向にあり、医師会員がCKD患者さんを適切に診療することは、個々の患者さんにとって有意義であるばかりか、市民全体の医療費削減にもつながります。

II. 志太医師会の取り組み

現時点で推奨されている最も適切なCKD 診療を行います。このために、藤枝市立総合病院腎臓内科専門医の山本龍夫先生が纏めてくださった“かかりつけ医の先生にお願いしたいCKD診療”を参考に、診療を行います。なお、“どのような状況で腎臓内科専門医に患者さんを紹介すべきか”は大切な問題です。これに関しては、“かかりつけ医の先生にお願いしたいCKD・DKD診療”に明確な基準が示されています。これに準拠して、専門医によるCKD 診療が必要な患者さんを、病診連携システムを通じて紹介します。

ふじえだCKDネットで大切なことは、多職種でCKD患者さんの腎機能を把握することです。そのためには、保険薬局の薬剤師に腎機能障害の程度を把握してもらうことが必要です。

ですから“かかりつけ医”は、eGFRが、50ml/分/1.73m²未満の65歳以下の患者さんや、45ml/分/1.73m²未満の65歳以上患者さんの処方箋備考欄に、必要に応じてeGFRを記載します。このeGFRの値に応じて、薬剤師は患者さんの“お薬手帳”に腎機能低下に関して注意を喚起する“Check！CKDシール”を貼付します。この“Check！CKDシール”が貼られていることにより、多職種でCKD患者さんの腎機能情報を共有することができるのです。また“Check！CKDシール”は、CKD患者さんに、腎機能に注意が必要なのだとの自覚を促す効果も期待されますので、積極的に活用します。

特定健診の結果、新たにCKD患者さんであることが判明した“かかりつけ医”を持っていない患者さんを、どこの医療機関に紹介したらよいか迷った時に添付した会員のリストを参考にしてください。

CKD 診療において食事療法は大変重要です。ですから、塩分制限、タンパク制限、カリウム制限などが必要と思われるCKD 患者さんに関しては、栄養士に積極的に栄養指導を依頼します。

なお、病診連携システムを通じて市立病院管理栄養士に指導を依頼することもできますから、これを適切に利用します。

“かかりつけ医”から、それとは知らずにCKD患者さんに対して不適切と思われる薬剤が処方された場合に、保険薬局薬剤師より、処方箋を発行した医師に疑義照会がなされます。その際には、CKD患者さんを薬物副作用などから守っていくために、担当薬剤師と対応について協議します。